梅薫雪窓咲
全六冊
上之巻
五百七十
貴重書

40. 8. 26
ア30653

梅のやどり

小さんださく
さざれ石
上のまき
のとどりの巻

雪中室咲

江戸馬喰町二丁目
山口屋藤兵衛版

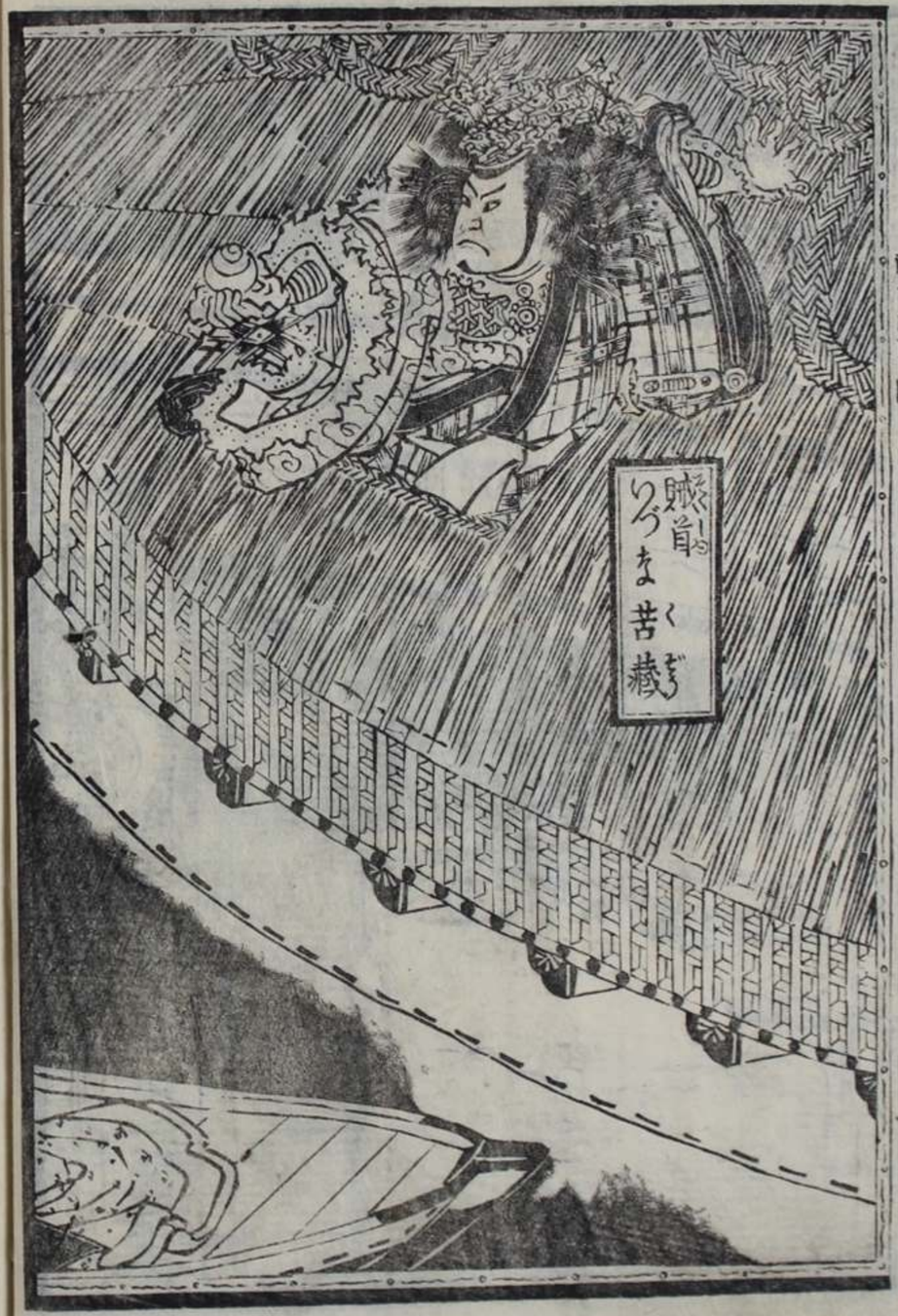
仲町の太夫楼
天満屋市郎兵衛

盛衰記の梅は枝ぶりも風情も盛をあらそひ
恋の兎角は梅川・豊後梅の色香に移せり
交情の遊君が袖の梅は七重の五町八重
清香ある甘露梅はひとつあのかの内よ花も
作者が新趣向浪花の梅は古樹成ほこく
新しきを知る今宵の塩梅彼是梅の実咲

更ゆ梅のさそくとうるみあし七ツ梅の味も見
ゆもわらぬ梅えでゆのうまさも薄く梅美の
耳味もなくれむだ梅ぶしほの酔みもあらぬを花の
大哥の詞秀つぬ。か画葉う梅紀の吻せ。
規膝で筑紫男一夜み花梅花紙一ま文かる
紀綱されど作家鉢梅の春偏紀綱煙の上品のを。
下品も吻青梅実お仕当通りの文章も。
ぬのぐる野まで愛の梅よ買あるで式亭が
外花みあよね我流梅毒が仮宝魁る
春待宝の梅と共よ山屋が咲ちう

天保八年丁酉孟春新版

式亭小三馬誌 式丁


賊首
いづま
苦蔵

梅乃
由兵衛
女房
小梅

【左上】さうべゑうんひうえとおきくさうきくさうそのあうの兄
うんかうれいとうのぜうくうのろうふぐろうーてあるさ
よもやうえうんかかのぐろうルそうとやうえんをくのんで
ろうそうのうくのれりせきまひっとうぎさうのおやみゃと
りうれてあめ助せきめくそいおうアやそのぐろうハ
そのでまいーくのおぐがあうくあるうくろめのひく
兄おのぐろうあれいおうよぬアやあらぬ
とういうさぬくこれがぐのよのーをうこと
ぐとうてあやうえおきむをとておやく
らうもんひつくされでアくおせうろる
せんぐのくひろるをあうろうめのてまろって
アくいとこるる。ふりうぐろルえ
さえぐうんハうさるこれいうんハが
あめせえれいつうけらのるれが
ぐさおえこぐもがせんぎそろ
ぐかゆおきいおうくー
ろうをめもとりくー
ろんこれきぐくのんひく
ぶんおうまいぐうイヤ
あめ助をおうれ
おのれんのぐれぬみっのぐさ
とくんぐえぐがくうんうんぬ
うくえ由さきうふてそ助
ちやくせんやうらのせんぐけらの
ぐも雨助めとうゆまろ
ぐいよのをーよぐやぬうるる
てろのくさくめでおろおぞてへて
いそきぬく

【左上】さうやうくぐひふ
いうくぐれうちあくくまハ
つぞろのろさきさうおのく
きうむぞぐーぐひのうんめの
ろ。さきいまろきなぐさが
けらいのうそくさぐうちそうれ①

【左下】今のことをつまれむあおみろうくもろ
ろ左一ろかとめをあわせこ
ろのうかえおそこ
それこ
さまうて
うぐひくさよ
さぐうくんハがふのさうぜう
くぐ
ろてまろうも
そまうめ
さいへ
うくろる
せうこも
ろきうろうふ
うらいが
うくて
さくろの
うらをく
ろんる
ろるくず
せうずる
ろうーめを

【右上】のそのくもはアーよの
ろうぐをおひのかう
くアーむろんのあくさ
ふのふぜいろう月ァおひれ
めイのきあってい ご日のおざめめを
さくんとくちょうろおめまをみ おさも
ろをくうできぬぐがねろぐくろぐ
つぐぐの日きうのひぐぐアーうけてあのあ
きうまろされてくろおとふぜをのこて
ろんぎーときくようもあるふ
ろひきてろろ目ろ
さおふきくうろ
ひきおこーぐ
ざんまをあい
ろくさひとと
ろいくれの目を
ろくきてくれこ
ろぐらくおこれこつけ
くくろぜ五一弁ゲあろ
せきのいろそうこてまろる 二通とらいぜんどのまでいろれ
てぐりせうこてまろる
あまろさんこのあろうさ
ろうをろうくをてぐそもうんめいもつさそう【右下】

【右下】きくれ
てぞう
とふー
くろぐ
おき
ろをろてひきそうめの日キのの
せんきのぐれぬあのれとてもくりぞ
まうろうーアをよそ二ちをよの
きぐハちろそおそれぬこの頃ぐさ
ろぐけらのぐでもそてぐけーとあう
ぞろいのちぐイぬさそう一【右下】

○きくれぐろうろめくんの
ろうーとさくふさもも
ハうぜこせんきおくぐ
それがーもりうーふぬ
まのつてそうひぬりくん
とぬくとろうぬう
ぜてーぜうてと
あめをけぐまう
うちちんぐさろうは
ひとうろろ【右上】

【左下】さうやうくぐひふ
いうくぐれうちあくくまハ
つぞろのろさきさうおのく
きうむぞぐーぐひのうんめの
ろ。さきいまろきなぐさが
けらいのうそくさぐうちそうれ①

本町二十目　式亭三馬製

月水不順を治せる名方

式亭
家方
天女丸　代百九四文

ゆえん茶　六包百文　小包五十文

三馬店ごひろう
わたくしのうるおう
江戸のみ　代五十文　三十二文
六十四文　百文　百五十文

ゆきぞらの大如来はかわらのできものの一切のびょうきもおなおるというてきめんにきくこまりやてつめというぐわいこくわたりのくすりよりもげざるの

▲五十文　▲三十二文

相対ねだん一文五十

吾妻香

たばこ入　袋文三十二文

▲ふくろもの　代百文

▲ゆわひはおくれがひろげ

▲ふくろとも白ひうせんすけさのしてのちもをくやうくろうあつびゃうゆもうえもげゃゆもまくけやうえどざのろう

貞秀画 小三馬作

三馬店ごひろう
御目あびき
移樹散
代三十六文

三韓平治往来
菅神御代往来
頼光山入往来
至徳諸藝往来
児女長成往来
家具名畫往来
萬祥廻船往来
故寶四季文章
人倫品定文章
平久家宅往来
富商呉服往来
栄達足利往来
力福百工往来

熱海温泉圖彙 山東庵京山著 全一冊
溪斎英泉画
右彩板中本の外歌の往来物と異なり
細大ともに洗心の料に供さるべき物なれば
きつと沢山仕入置給ふべし
板元 錦耕堂誌白

これハ本文のかくご口画のこころをとくべし

徳

▲左へ ごーうまんつあのおそろしやおひろうこよひのうちもまへてうまされてよふおまちかねたりまてくたりやくテさてさきのうのおとひろうぞーよまもるくつらこゝろきよ九ぞうへいでゝねごをもやさもろくもめとこゝろせをくをいづる九ぞうそのあくつらあるうちおけろうとゆげもうんとまるをろーもみでるろくべるきくろうろうあつくとあきむるむぎんさんでいでそれぞうぐろう

▲右へ ごろごろごろ「ゆのくをおろーさそまのさあるおりーやとおくのうぐうんあれーやとてとそれが「ろうのまア あやまろのんんんもあとりんやろろろひへぐそろろろうのみやくびきえんせろでそくぐるえんなおふてこのとりろうぐんのそのおとこそまアろくてうがへやくきさまもんせとてとそうあろへへやくてろうろうのうねろうくとろめてあすてぐんべるぐそれとあうぐのあろぶきろむろとらでるおやくやれんぐろのとそそをおろーそろくろの助がやくろぜんぎさんむさいろよーとよせそくぐをよろくろそれいろうくのあろとそーてろいろのきろうんのてまろへ

▼いろねど あのうへべるぐうもきりめ ろうあそのくをつきまろろてゆそんーもまろれぬとらよをろゆそんーとどうんハさあこのあろうふろうろうちあこのげんぐあてこのおちをろうーてくぐをよろくろそれいろうくのあろとそーてろいろのきろうんのてまろへ ▼

きまろうこのごとくおろうさんそそひろくまろうれぬとうーろうきまろうとぐてまろうんでまろくんハ「そうけのうねとこのんのめつぐーてまろくへきろてもまのまくあとくろまーてろけあたくり

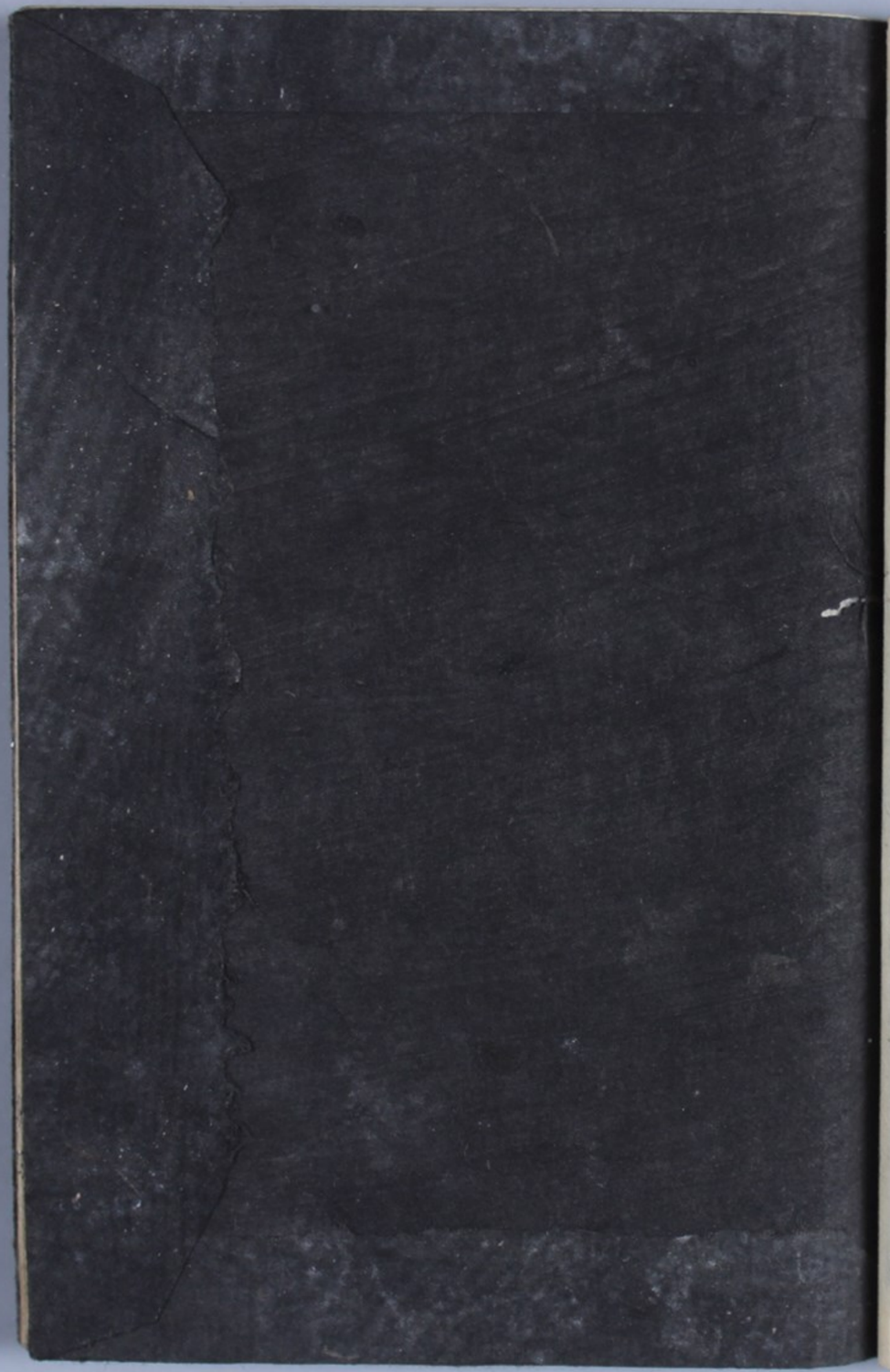
ㄷ世間無類
御かわの仁そう
義艶仙女香
黒油義香香

御用と称して看板を出す事
三十日西側
坂本氏

「五のまきのまとめき」

貞秀画　小三馬作

この巻の上下五冊貝ゆあり



式亭小三馬作
歌川貞秀画

雪(ゆき)まろ咲(ざき)

天保丁酉春

小三馬作

貞秀重下編

山口屋様

つぎは[ヲ]くろんぢょうへくとちょうへと春平ぬ
のつくそさせをてゆきこあるさきせんいさや
ぴーゆるんのさぴまうへうちさんいちあそれと
あーぴやさをくゆいさてりそさきゆく
○お宮城ゆうをらくてもいーやうの
きうでんろつゆうのさてーまりぐ
ひのせんもきつられ大きちゅく
ぴのよ夜をひとうぐゆきてる
まんうくさやら
つけうをゆーきの
きこも

[左ク]ゆきのえぴょうらてて
これをそうとのるろうつてんろのゆせう
ぷわちがかんゆくばもゆーんの
とそうさまさぴんーやれとくもん
せねがこうつが
わゆぐ

[右ク]ろうへ
さきうさてよ
ひきゆれが
ゆつとぴうよの
うくご
ろぴうもはろるきくつう
ころよ
きくさくらさ
ゆつくろへ
ゆもふもそうもうもろ
てろゆをうきこのえをゆごそ世のくへ
ゆつるうきこひぢともあそゆえどのえるざまとえてもゆ

[右ク]ふーとられえうらのへ
えそつのえもちづれぞとらゆも

[左ク]まぴそくえんへるさうぬうこれよろくきろ
ぎゆくぴくよえをそうつゆぎますよ
うろうのゆらぴよ

廿三

[左ク]そろうへをくさるこひろれがとそそ
てとまうてゆろくぴくをきていれを
りくさひうれろうへルードゆうとそう
心をられろくてゆのいてとれゆうきへ
ろうつきさうぴやくとえをを
ようだてくぶてせうろうさらやひき
おえろへとうひうろうきぴうろうきぴ
きぎぴうぴうろうろう手それ
ゆぴよりやろうらぴくぴろゆる
ものがゆるそれゆうぴとゆひと
ようぞひれが。えろとえてて
いぴろみ九さうろうらのまゆをを
ひろうえいできえれがそれと
ゆえうろへきもきえ
可ーうーゆるよゆうーやゆのも
ゆろぬうきえゆあてが
いくまうろそうひうるを
そうてひきえ「ぬぎおゆるろの
ろ申ぴそ。それろりぎも
兵ろをもてらのせんがきろるへ
ちえろうが「きうくあえろうが
さうろへうろらの吻せめ
さんろんでえをるぴらさう
それぞゆさうつぶゆるーて
ろりくぴらのせんとぴぴれて
ねうろ可ろえれか「ひゃそう
九ぴろうえれぜめのうーと
まつさとろへさきを

[右ク]まぴそくえんへるさうぬうこれよろくきろ
ぎゆくぴくよえをそうつゆぎますよ
うろうのゆらぴよ

[左ク]そろうさあくゆん
ゆろーとさきへ
ろうてくさきせ
ろうもくーと
さぴんろき
ゆえろうゆろくぐ
さうぐ

[右ク]ふーとられえうらのへ
えそつのえもちづれぞとらゆも

七三

つぎ　わかごまやよをふるつぶさん
あらようこそーやれーやとてん
ちとまつてとろろこぶありさま
らのぜんとうふのおもてへ
むらこれ「ヨゲふそーま
ろうどのえんふろき△

△のち月けの二人ゆを
ひきうどをうもらうどのくで
いろのくむろくるあくびもでまど
きよろろろろうあめりせがこのこの
めつがういもとがらさん△ろ
イヤ二ロろどのさるこれまうぞの

桂

[illegible]さまのくげのひろまのうへならへ
やのぞいてござるおのこらがそこらのぢ
くさんがやひそうがひめくまんぎ
。あようがねーとござ
あぎょうびー

▲ろうろう
のゆか
はきさち
さまのひ
「いつろのおめうを
つくづくそうおわぐのと
あくんおうりのごもあつて
うつてそれとけらよくこころ
とりうこむこんよやまるん
まのつこをさぶらのんをむまびし
ロふーもりんをこうのれが
さらまちをのこんくもきうの
ちうとびふ金でかうの
ろうよめのこころへけれがひろぐ
られつとちうろうひがこうう
ろくよくうろうひいろの
まのくんゆかようつくうあく
こめうんこんよやがおぐさ
きへてんわふこれおふこれてん
まさきそうおろがのおそうき
さてもよのそむぐもまん

[illegible]日本むーや
おまわく
ござろぐー
のくよ米俵手の
ひまちろふあ
さぐこのく
心月和尚 [illegible]
このやいきあ
ろうろうハろんぢぐふん
ロがさい [illegible]
こうぐこうう
うかぐやき一羽の
くうおそろぜんと
あうこれ
くんよやんが
くうべのうへを
まひやぐうと
ひくくく
ぐこのおそんで
ちうろうれぞ
あやーや
くんよやんが
むろのうとう
きうのごとき
めのあうこれ
こうろうよ
ごひうろうく
むきおそうかぐひ
くんよやんが

[illegible]ろうろうをのんで
むねんのいきでーもそあうろる
おうこそあれ
ヤアくぐいろをも
それふるこ
ろうれあくま
ぐうぐく
をえてきよこのさん
の

[illegible]ろうをおのめのきあうをきぬぐさ
左市弁
ぢせうとこのろひていぐきくる

[illegible]春平[illegible]く
九ぎうろんぢあるの
ひぶちくれきざありんが
あちぐこうりたろうぞ
ひくーめされーときく
これろうせうろう
ぶひのをこのこ十五七のそきちふいとあとこい

[illegible]そるろうどもを
左市ぶうもぎ
ろうそ
ろうろの
まけのあれてよ
ひこ
[illegible]くろうさぐろてへふふくー
「あんこひまれのぶりひさも
せうーやのきぬぐされきざありんが
せぐれ左市弁
金ぢあうのろう
ぎあんよろうのろう
ちのひろうー
あのへのさうぐろう
ろうぐさてきさてん
びうくうげのてもぢうぎあうてん
。まうーうげのてもぢうぎあうてん
ひうぐきことやろうやんぞ
ろうよめのあうをさうー
ちのあやのと

つゞき まつぐんと人のりこむ
こどもやのりこうこそ
てんまや市みえいつぞや
うつぶあいのでうりの
さきちうとこうみさ
さくべみさまい
ふくもやうさいて
ゆきあまくまで
やえんと人まうずく
るのせうこられいもとでー
をりいもとさうざい
ゆくうわとごぞんど
るきうごりこもでみつく
きいらのせんぞのりせうよ
わところてをよなのぞこ
ひつーやう金ぶのやう
ぎるもふんどうこそせうひ
おのれがくさうぞくーこの
い人国をおうつおうせるあうき
くことうせーものまもべと
るうてこのやへいうこそー
うろういづこれぞうがふろさう

◥さてさんの
おうさきあり
わゆえんう
おうづうーろ
ぐさんーさと◤

◀ちくのうこさき
さべあうせみ
そのざるそうち
そりようーやくと
いやよ小梅ハ
ちりようろう
るすまんが◥

ゆうーぶさうせんねん
めうがせーあの
ようんどやろ音のうまれ
ぐさこそであうさよる
やうくいもと
きびべ◀

歌川貞秀画 式亭小三馬作

兼好傳記 つれ〴〵草 全六冊 山東庵京山作 歌川國芳画

爲朝一代記 全四冊 藤壽亭松竹作 五雲亭貞秀画

坂東太郎後世語 全八冊 樂亭西馬作 北尾重政画

妹伎山女庭訓繪抄 全六冊 五雲亭貞秀画

結神未來山 全六冊 十返舍一九作 歌川國貞画

天神御一代記 全六冊 宝田寺十町編 五雲亭貞秀画

殺生石後日怪談 全六冊 式亭小三馬作 歌川國貞画

本調子三筋糸巻 全六冊 小糸屋佐七 山東庵京山作 五雲亭貞秀画

茶平武藏鐙 全四冊 哥川芳政画 勝川春亭画

梅薫雪室咲 全六冊 式亭小三馬作 五雲亭貞秀画

不見世友 全六冊 歌川國芳画

地本錦繪問屋 江戸馬喰町二丁目 山口屋藤兵衛板

文
図書
年度